

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600051	
法人名	特定非営利活動法人のぞみの里(認知症対応型共同生活介護)	
事業所名	のぞみの里	
所在地	長野県木曾郡木曾町福島5569	
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成25年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人のできることを探しながら、調理、掃除、洗濯等の日常生活の得意な分野での活動が出来るように取り組んでいます。利用者のほとんどの方が歌が大好きなので、毎日、歌を歌って楽しんでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームのスタッフは、利用者の生活の安定を第一として、日々の生活支援に従事している。採算をある程度度外視してでも手厚い人員配置と必要な施設整備に力を入れようとするなど地域のために力になりたいとの思いにあふれた事業所といえる。そこで暮らす利用者には明るい笑顔があふれるなど、ホーム内での人間関係は良好である。日常生活の様子から利用者と職員間には良好な人間関係が形成されていることが垣間見られる。また、ホーム内ではゆったりと時間が流れる雰囲気を感じられるなど、落ち着いた雰囲気ケアが提供されている。このようなソフト面での配慮に加えて、自然災害をふくめた利用者にとりうるリスクへの備えとしてのハード面の整備にも余念が無い。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域に根ざした施設でありたいとの思いは職員それぞれにあるが、「理念」としてまとまっていないため、共有できていない。</p>	<p>事業所の設立者(代表者)には地域とのつながりへの熱い思いがあり、それを職員が十分に理解している。文書化された理念を唱和するのではなく、代表者自らが行動で示すことによって、理念が職員に浸透しているように見受けられる。</p>	<p>一部の職員の印象では、理念としてまとまったものが可視化されているとは言えず、それを全員で共有できているとまで断言できないようである。何らかの手段を用いて、事業所理念を再確認する機会を設けることが望まれる。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>祭り等地域の行事にはできる限り参加している。また、清掃活動や防災訓練などにも積極的に参加している。</p>	<p>利用者でない地域の人々にも気を配り、事業所の持つ資源の分配を惜しまない。例えば、体調がおもわしくない人が地域にいたら、事業所の看護師を派遣することもある。また、緊急時には定員を超えて受け入れる準備も怠らない。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>十分な取り組みは出来ていないが、相談に来た方には丁寧に対応している。今年度は地域の防災訓練と一緒に参加した。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催し、介護状況の特長・課題、ヒヤリハット等で報告している。その中で委員に理解をしていただくとともに、意見、指導を受け業務に反映するようにしている。</p>	<p>運営推進会議では、事業所の状況を詳細に報告し、十分に説明責任を果たしている。また、推進会議への報告を機会として、会議中に出た課題を評価して改善に結びつける努力をしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>困難事例がある時は相談にのって頂いている。2ヶ月に1回の木曽病院で行なわれる福祉、医療の連携会議に参加している。今年度は保険者主催の6回シリーズの学習会に参加した。</p>	<p>地域密着型サービスの周知度を改善するために周辺市町村だけでなく、広域一部事務組合との調整を意欲的に推進するなど、行政との関係づくりは積極的に行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は全職員周知している。現在、利用者の状態は落ち着いており、必要性はないが、必要時には家族に説明をし承諾を得るようにしてから行なうことになっている。</p>	<p>身体拘束について十分に理解している。それに該当する行為は全く行われていない。危険箇所へ進入しないための工夫が随所でなされている。転倒リスクのある利用者については、目配りの頻度を増やして対応している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>制度についてわかってはいるものの、現場で職員が利用者に対してきつい言葉を発する場に遭遇した時は、別の場所で指導するようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、職員会等で報告している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書を基に説明している。今年度は新規契約はなかった。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプランの更新時等には意見を伺い、反映するようにしている。10月に家族会懇談会を行い、3名の参加でしたが、貴重な話を聞かせていただくことが出来た。</p>	<p>利用者に対しては管理者や職員だけでなく、事業所代表者が自ら利用者の声を聞くように努力している。また、年一回は家族会を開催し、自由な提案や意見を述べられる雰囲気づくりにも配慮している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回の職員会を行い、職員の意見を聞くようにしている。又、いつでも気がついたことは言えるようにしている。</p>	<p>代表者、管理者、職員間のコミュニケーションはとれており、提案を自由にできる雰囲気がある。事業所の運営に関して一方的に代表者が提案するのではなく、職員の意見・提案を尊重している。</p>	<p>職員の勤務体制について十分なコンセンサスが得られていないためか、軽微ではあるが職員間に意見の不一致があるように感じられた。この点について話し合いが望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい財政状況であり、わずかな手当ではあるが特別手当を支給することもある。最低、年に1回の外部研修を受けられる様な体制を整え、研修日も組み込んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は職員掲示板に掲示し、最低、年に1回の外部研修を受けられる様にシフト調整を行った。参加費も1人3000円まで法人で負担した。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合、木曽病院、宅老所・グループホーム連絡会等が主催する研修に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、勤務内容の見直しをした。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行いながら努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行いながら努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、得意なことを見極めながら、掃除、調理、洗濯干し等を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り受診に付き添ってもらったり、帰省が出来るようにしてきた。月1回は担当職員が『お便り』で本人の様子を手紙で伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者とのコミュニケーションの中から、情報を入力し、思い出話をしたりしている。2月には五平もちづくりを予定している。外出時に利用者の従兄弟にも加わってもらうこともある。	利用者との会話の中から馴染みの人や場所などに関する情報を入力し、日々の会話の中で話題にするなど、関係の継続を意識したコミュニケーションやケア提供に努力している。また、地域に馴染みのある行事を開催し、その際には家族との交流の機会を設けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの利用者がホールで過ごし、自分の席やソファでお互いに話をするなど、くつろいでいることが多い。中傷等が見られるときは、職員が間に入るなどしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はその様なケースはなかったが、入院時等は利用者と一緒に御見舞いに行くなどした。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら努めてきた。発語が少なかった利用者の発語が多くなったり、表情が豊かになってきている。	集団を対象としたサービスを減らして、個別の要望に応えた支援がなされている。特に利用者との日々のコミュニケーションを重視しており、その中から一人ひとりの思いを把握するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを図りながら努めているが、コミュニケーションの大切さを理解できていない職員もいるので、今後の課題でもある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は毎日のバイタルチェックを中心に行なっている。特に排便は重視してきた。有する力の把握はまだまだ課題となっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングとカンファレンスを行いながら取り組んでいる。家族が来所時には施設内での様子を伝え、家にいたころの様子を聞くなどしている。	日頃から職員同士が密なコミュニケーションや連絡ノートを用いての情報交換をしながら、介護計画の作成に努力している。また、サービス担当者会議での話し合いをベースに介護計画は作成されており関係者の意見も反映されている。	アセスメント、モニタリングの方法については、前回に引き続き、試行錯誤の段階にあるので、実践の中でより効率的かつ適切な情報整理および介護計画作成のあり方を検討していくことが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に記入しているが、記入の仕方がそれぞれである。2月には施設内で記録の研修会を予定している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から申し出があった時は受け入れている。利用者が高齢になってきているので、施設の近くへドライブをしながら町内で食事をする等の外出をした。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほとんどの利用者が歌が大好きで毎日歌って楽しんでいる。今年度は歌声喫茶を企画し、地域の方と共に楽しむことが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>出来る限り家族に付き添ってもらっている。いけない場合は、受診の様子を報告している。</p>	<p>医療機関の選択については本人および家族の意見に基づき決定している。受診が必要な際はまず家族の付添いを打診するが、困難な場合は職員が専属で受診支援にあたる。受診日には人員を確保して他の利用者へのサービスに支障が生じないよう配慮している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>早期発見に努め、異常を感じた時はNSに報告し指示を仰いでいる。特に排便には注意を払っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報の提供、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けての指針をみなおし、同意書の再提出をしてもらっている。</p>	<p>常勤の看護師を中心に、終末期ケアのあり方について検討し、利用者および家族の要望に応えられるように準備している。</p>	<p>今後、利用者の重度化が進むことが予想されるので、そのための対策をさらに検討していくことが望まれる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急隊の協力をいただいて施設内での訓練を行った。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月1回、何らかの訓練を行っている。模型を借りて来ての訓練も行ったが、全職員への周知が徹底できなかった。防災の日に合わせて、地域住民と一緒に防災訓練に参加した。</p>	<p>様々な災害発生時を想定した施設整備を含めて入念な準備に努力している。利用者の生活に支障がない範囲で地域の協力を得た避難訓練を定期的実施している。防災機器の動作チェックも漸次行っている。</p>	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その様な努力はしているが、時として口調が強くなってしまいう場面もあり、その時々で注意することもあった。	認知症なので言ってもわからないからといったような対応はされていない。居室に入る際には常に気配りするなど、プライバシーへの配慮も怠っていない。言葉遣いには特に注意して対応している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図ることを大切にしたいと思っているが、まだまだ不十分である。今後の課題として取り組んでいきたい。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが、職員側の都合が優先されることがあり、今後の課題として取り組んでいきたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみへの配慮はしているが、その人らしい所までは行きわたっていない人もある。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前に比べると利用者の参加も増えてきたが、担当する職員によって一緒に行なう事に差がみられる。	一人ひとりにあった食事の支援がされ、食事時には常に目配りされてもいる。食事の準備や片付けへの参加は決して無理強いせず自然な形でできるように働きかけている。また、食前には食欲増進および誤嚥予防のための発生訓練などの体操も取り入れている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については毎日記録を付け注意している。場合によっては本人の状態に合わせた時間に食事を食べていただくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>朝食後の口腔ケアをしていなかったが、食後は行なうように改善してきた。拒むことがある場合は、タイミングを見計らって対応している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>漏れるから吸収量の多いパットではなく、その人のパターンを把握し誘導するようにして、排泄処理ではなく、ケアになるように努力をしているところであるが、まだ時間がかかりそうだ。</p>	<p>安易に性能のよい排泄用具に頼ることなく、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導をするなど排泄の自立支援に努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便は重視しており、便秘にならないように、早めの対応をするようにしている。しかし、薬に頼る部分がまだ多い。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>職員の都合で午後入浴になってしまっている。しかし、無理強いをしないようにお願いが出来、ゆっくり入ってもらえるように余裕を持った入浴にしている。</p>	<p>職員の勤務時間上の都合で、利用者が入浴時間を完全に自由に選択できるわけではないが、個別にゆっくり入浴できるように時間的に余裕を持った入浴支援をこころがけている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その人の体調や睡眠の様子に合わせて対応するようにしている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>拒否のある利用者に副菜に混ぜていたが、食後にきちんと飲ませる努力をして改善した。現在の状態をDrに伝え、服薬を減らし、歩行が安定した方もいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることを見極め、役割を持てるように努めている。誕生日には本人の希望献立を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけては天気の良い日は、散歩に出かけた。春はグループに分かれてドライブをしながらお花見をし外食をした。秋は散歩をしながら町内の喫茶店へ昼食を食べに出かけた。	個別の要望に応じて外出できるように人員配置が手厚くされている。普段は集団で出かけることが多いが、要望があれば、たとえ一人の要望であっても、それに応えるための準備がある。例えば遠方の映画館に職員一人が付添うなど、一人ひとりの思いを大切にしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しくなっているため預かり金として法人が管理している。必要に応じ、一緒に買い物に行き支払いをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は対応しているが、あまりする人が居ない。プレゼントを送ってきてくれた時は、職員が支援しながらかけるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に清潔と整理に努めている。毎朝、クイックルワイパーを使って掃除をしている。	共用の場所には、利用者の精神的な安定を妨げるものは全くなく、安全・安心に配慮した空間になっている。またその空間づくりやその維持は、利用者との協働によって行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを持って来てもらっている。	居室には家族からの手紙や写真が飾られているほか、自宅での生活で馴染んだ家具類を自由に持ち込むことができるようになっている。本人が安心できるような配慮は十分になされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは「お手洗い」と表示し、わかりやすくしている。施設の広さに制限があり、安全には努めているが、多様な事はできない。		

目標達成計画

作成日: 平成25年3月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25,49	・一日の中で、イスに座っている時間が長くなっているため、機会を設けて動くきっかけをつくり、筋力の低下の予防が必要である。	身体を動かし、皆と楽しく過ごそう。	・一日一回は身体を動かしたり、散歩(外気浴)に出かける。 ・室内でできるレクリエーションで、身体を動かす工夫をする。(冬場) ・お腹の底から笑ったり、歌を歌う。(12ヶ月)	6ヶ月
2	13,26	・ケアの仕方も日々進歩している。利用者も職員も共に負担にならないケアを学ぶ必要がある。	チームケアの向上を目指そう。	・積極的な研修の参加と知識の共有。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。